

データヘルス計画中間評価

R3.3

1 計画の概要

(1) 健康課題

① 生活習慣病の発症予防

特定健診の実施率は高いものの、若年層や男性の受診率が低く、また、保健指導の実施率が低いことから、実施率向上の更なる取り組みを図り、生活習慣病の発症予防を図る必要がある。

② 生活習慣病の重症化予防

脳血管疾患や虚血性心疾患、人工透析等の重症化疾患には、高血圧や糖尿病等の基礎疾患があり、また、入院の疾病別医療費でも上位になっていることから、生活習慣病を重症化させない取り組みを実施する必要がある。

(2) 計画の目標

① 短期目標 特定健診受診率の向上、特定保健指導実施率の向上

② 長期目標 生活習慣病の重症化を防ぐ

(血糖有所見者割合の減少、血圧有所見者割合の減少、一人当たり医療費の伸びの抑制)

2 計画の期間

令和元年度から令和5年度の5年間

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
			中間評価				
※標準							
計画策定	第2期計画データヘルス計画期間						第3期計画期間
	新温泉町	第1期データヘルス計画期間					
	計画策定		【前倒し】 中間評価	中間評価		評価・ 計画策定	第2期 計画期間

3 計画の事業評価

計画期間は標準と異なるが、平成29年度から令和元年度までの保健事業の実施状況、目標の達成度を確認し、1年前倒しにより令和2年度に中間評価を実施する。

※ 標準…第2期データヘルス計画は、多くの場合、平成28年度の値が基準となっているため、平成29年度から直近（元年度）までの実績値を用いる。

4 計画の進捗状況

■評価方法

データヘルス計画の目標値と実績値、事業実施量について次の区分により評価する。

改善状況	事業実施量（アウトプット）
○ 計画どおり進行	○ 概ね目標量実施
➡ 改善しているが計画どおりではない	△ 目標量の70%程度
△ 改善なしあるいは悪化傾向	× 目標量の50%程度

(1) 特定健診・保健事業

①特定健康診査事業

目標値 (R5年度)	実績値			改善状況 評価	項目を構成する保健事業
	H29	H30	R1		
特定健診 受診率 60%	43.6%	43.9%	(48.0%) 44.1%	➡	①受診機会確保事業 ②受診勧奨事業 ③啓発事業（チラシ全戸配布等）

※（ ）内数値は目標値

■達成（未達）の要因

- ・ 集団健診日の日時割りによる予約制、休日実施、がん検診等との同時実施を行った。
- ・ 国保加入者へ受診勧奨チラシを送付した。
- ・ 啓発チラシの全戸配布、町内会長・区長会の場で勧奨案内を行った。
- ・ 未受診者に対する個別具体的な勧奨ができなかった。

■事業実施量（アウトプット）

- 概ね目標量を実施

■評価

- ➡ 改善しているが計画どおりではない

■事業の方向性

受診勧奨の仕方を工夫し、特性に応じた個別具体的に、40歳時及び60歳以上を重点に実施する。

②特定保健指導事業

目標値 (R5 年度)	実績値			改善状況 評価	項目を構成する保健事業
	H29	H30	R1		
特定保健指導実施率 60%	3.4%	6.6%	(8.0%) 8.0%	➡	①特定保健指導勸奨事業 (文書) ②特定保健指導勸奨事業 (電話) ③集団健診当日の保健指導

※ () 内数値は目標値

■達成（未達）の要因

- ・ 対象者の 100% に文書勸奨した。
- ・ 健診結果説明会の機会に面接を実施できるよう事前に電話で来所の勸奨を実施した。併せて、特定保健指導の意思の有無の確認も行った。
- ・ 当日は、大人数の保健指導をしており特定保健指導の実施にまで至っていない。
- ・ マンパワー不足により、積極的支援の対象者に対する指導が十分でなかった。

■事業実施量（アウトプット）

× 目標量の 50% 程度

■評価

➡ 改善しているが計画どおりではない

※「計画どおり進行」しているが、今後の目標値を考慮し「➡」とした。

■事業の方向性

健診当日に特定保健指導ができるような仕組みづくりを検討する。

(2) 生活習慣病の重症化予防

糖尿病性腎症重症化予防事業

目標値 (R5年度)	実績値			改善状況 評価	項目を構成する保健事業
	H29	H30	R1		
対象者の 医療機関 受診率 95%	-	90.8%	(91.0%) 89.7%	△	①受診勧奨事業
生活習慣改 善率 60%	55.5%	57.1%	(58.0%) 57.1%	→	①糖尿病予防教室 ②健康づくり事業
新規人工透 析患者数	2	3	2		

※ () 内数値は目標値

■達成（未達）の要因

- ・未治療者、中断者、治療中者の区別をせずに事業を実施した。
- ・対象者への受診勧奨は、健診結果と併せて100%通知した。
- ・マンパワーの関係もあり、勧奨後の個別の確認が十分ではない。
- ・参加者の57.1%が生活習慣の改善を実施している。また、糖尿病予防に対する意識も、「とても高まった方」が35.7%、「やや高まった方」を合わせると92.8%であった。

■事業実施量（アウトプット）

- 概ね目標量実施

■評価

- ➡ 改善しているが計画どおりではない

■事業の方向性

KDBシステムのデータを活用した事業の取り組み方法の検討。糖尿病に関する意識の向上を目指し効果的な教室をもつ。

未治療者、中断者への受診勧奨後の確認及び保健指導をする。

(3) 医療費適正化の推進

後発医薬品使用促進事業

目標値 (R5 年度)	実績値			改善状況 評価	項目を構成する保健事業
	H29	H30	R1		
数量ベース での後発医 薬品使用割 合 80%	-	68.6%	(70.0%) 71.7%	○	①後発医薬品差額通知

※ () 内数値は目標値

■達成（未達）の要因

- ・年6回、後発医薬品差額通知書を対象者へ発送した。
- ・保険証更新時に啓発用小冊子を送付した。

■事業実施量（アウトプット）

- 概ね目標量実施

■評価

- 計画どおり進行

■事業の方向性

計画どおり継続する。

5 計画の実施状況評価

■評価

①ストラクチャー（計画立案体制・実施構成・評価体制）

（計画立案・評価体制）国保、衛生部門で、特定健診・保健指導、生活習慣病の重症化予防に係る事業を計画・実施しており、各事業の進捗状況の把握、年度評価について協議を行った。

（予算・人員）委託可能事業が限られており、人員の確保も十分ではなかった。

②プロセス（保健事業の実施過程）

（評価指標）健診結果、KDBシステムから抽出した情報を活用した。

（各種受診勧奨）ほぼ計画どおりだが、参加者の増加、個人のデータ評価等が十分でなかった。効果的な事業にするためのカンファレンスに十分な時間が持てなかった。

③アウトプット（保健事業の実施状況・実施量）

（特定健診・特定保健指導）集団健診のみの実施で、受診勧奨通知及び保健指導勧奨通知の発送は、100%実施した。集団健診当日の特定保健指導は、実施できなかった。

（糖尿病腎症重症化予防）個別の文書勧奨は100%実施したが、電話勧奨は30%の実施となった。予防教室は計画どおり実施した。

④アウトカム（成果）

指標	H29 年度	H30 年度	R1 年度
血糖有所見者割合	33.4%	32.6%	36.3%
血圧有所見者割合	44.5%	48.8%	57.5%
一人当たり医療費の伸び	3.8%	3.5%	△1.6%

[参考]

健康寿命（平均自立期間）	H29 年度	H30 年度	R1 年度
男 性	79.1	79.4	80.1
女 性	84.8	84.5	84.8

■今後の方向性

保健事業の目標達成を目指し、各事業の方向性に基づき、関係機関と連携して引き続き取組を推進する。